

促成イチゴにおける紙ポット育苗苗の定植方法

紙ポットを用いて頭上散水により育苗した苗の定植方法としては、ポットの側部だけを全面除去する方法が適する。ポットを除去せずそのまま定植するとその後の生育が抑制されるが、側部全面除去によりすべて除去する場合と同程度に収穫開始時期が早まり、年内収量が増加する。側部全面を除去するための労働時間は、すべて除去する場合に比べ約20%短縮される。

農業研究センターい業研究所作付体系研究室（担当者：岩本英伸）

研究のねらい

促成イチゴでは、紙ポットを利用した育苗により頂果房の花芽分化が促進され収穫開始時期が早まる。しかし、ポットの崩壊が不十分な場合には定植後の活着が遅れ、十分な収穫期の早進効果が得られないことがある。そこで、紙ポット育苗苗の活着促進のための定植方法を明らかにする。

研究の成果

1. 紙ポットを用いて頭上散水により育苗した苗をポットを除去せずそのまま定植すると、ポットをすべて除去した場合に比べ根の生育が抑制され、頂果房の出蕾日や開花日、収穫開始日が遅延する。また、年内収量もやや減少する（写真1、表1、図1）。
2. 底部を残し側部だけを全面除去して定植した場合の根の生育や頂果房の発育、年内収量は、すべて除去した場合と同等である。底部だけを除去して定植した場合はこれらよりやや劣る（写真1、表1、図1）。
3. 側部全面を除去するための労働時間は、すべて除去する場合に比べ約20%短縮される（図2）。

普及上の留意点

1. 本試験は「ひのしずく」を供試し、パルプモールド製紙ポット(容量 350 ml)を用いて行った。採苗は5月18日～6月22日に鉢受け方式で行い、6月30日に切り離した。
2. 試験ほ場はグライ土壌である。
3. 試験を実施した2009年は例年より早く9月10日頃から気温が大きく低下し、紙ポット育苗苗、黒ポリポット育苗苗ともほぼ揃って花芽が分化した。



写真 1 定植後の根の生育状況 (2009年10月23日)

表 1 定植時における紙ポットの除去方法が頂果房の発育に及ぼす影響

試験区	出蕾日 (月/日)	開花開始日 (月/日)	収穫開始日 (月/日)
除去無し	10/21	11/2	11/30
全部除去	10/18	10/31	11/27
側部全面除去	10/18	10/31	11/26
底部除去	10/19	11/1	11/28
黒ポリポット (参考)	10/18	11/2	11/29

注) 定植日：2009年9月18日 (黒ポリポットは9月22日)

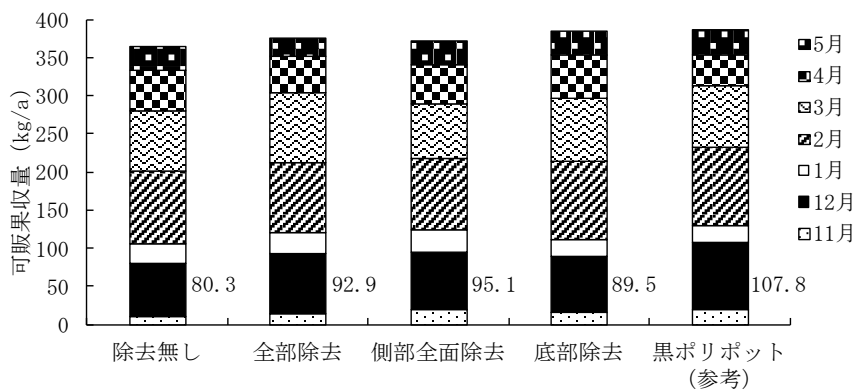


図 1 定植時における紙ポットの除去方法が可販果収量に及ぼす影響
 図中の数字は年内可販果収量 (kg/a)

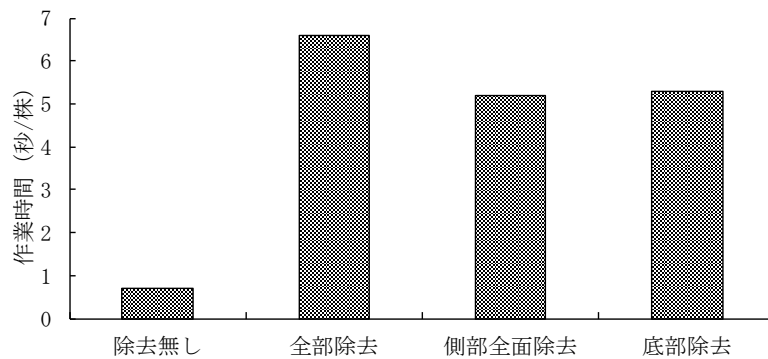


図 2 定植時における紙ポットの除去方法が除去のための作業時間に及ぼす影響
 紙ポットの除去は苗のコンテナ詰め前に行った作業時間にはコンテナ詰め時間を含む